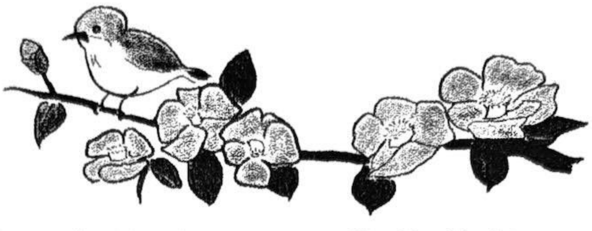
日本基督教団　梅ヶ丘教会会報

ぶどうの木

発行人　牧師　広田叔弘
企画編集　広報委員会
www.church.ne.jp/umegaoka/
〒155-0033
東京都世田谷区代田 3-37-7
TEL：03-3414-5772
FAX：03-3414-5778

第２７１号　２０２６年　２月号　２０２５年１月２５日発行



『来年の今ごろは・・・』

牧師　広田叔弘

「わたしは来年の今ごろ、必ずここにまた来ますが、そのころには、あなたの妻のサラに男の子が生まれているでしょう。」サラは、すぐ後ろの天幕の入り口で聞いていた。

創世記　18章10節

役員会では、来年度の準備が始まりました。伝道計画、教会の日常的な営みの検証、支区教区の負担金。今年度の経済的な実績や教会員の異動、等々。現状を踏まえて将来を望み、最善の現在を探しています。

教会の営みは地味です。家庭生活に似ているかもしれません。当たり前な日常の繰り返し。この中に喜怒哀楽があり、課題があり、チャレンジがあり、人が成長していきます。そして平凡な日常は膨大な努力によって維持されるものでしょう。教会も同様です。主の日の礼拝が中心です。祝祭の日があります。愛する人を天に送る日があります。新来会者がやって来ます。やがて信仰を言い表す日が来るのです。私たちの信仰と努力が重なって教会は維持されています。このような日常の一つ一つに主の大きな恵みがあります。

このようなわけで、平凡な日々の積み重ねを大切に考えています。そして同時に、このような考え方の中に〝落とし穴〟があることも感じるのです。

神さまはアブラハムに息子を与えることを約束しました。しかし約束は果たされることなく、夫婦は歳をとりました。そしてこの日、神は旅人に姿を変えて訪れて「来年の今ごろには、男の子が生まれている」と告げます。

サラは笑いました。この笑いは神を侮る笑いです。冷たい笑いです。「何をいまさら、バカバカしい。ケッケッケ・・・」。

「来年の事を言うと鬼が笑う」と申します。鬼も悪魔も笑いません。人間が笑うのです。現実に心を奪われて、神の言葉を笑うのです。

教会にとって落ち着いた日常を作って行くことは重要です。熟慮を集めることは当然でしょう。そしてこの中で、私たちの思いを超える神の御業があることを覚えたいのです。降って湧いた幸運を期待するのではありません。主の教会を私たちの思いや考えで支配してはいけないのです。教会の頭は主キリスト。この方が、人の思い超える御業を現します。教会はキリストの生き証人であり、主の御業に与かって生きる信仰共同体です。

先立って歩む主を信頼しましょう。このお方に信仰の心を合わせ、考えと行いを集めましょう。来年の今ごろ、私たちの思いを超える主の御業を仰ぎ、共に喜びたいのです。